

ホーム名：グループホームいなば					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示している	理念と基本方針、運営方針が定められている。現在の理念は包括的な法人の運営方針に近い。職員が入所した時には理念について説明している。	現在の理念は法人の介護老人福祉施設全体で共通の理念であるので現在の基本方針を基にグループホームとしての簡潔な理念を考えてみていただきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園と交流会を持っている	法人としては自治会に参加しているが、住宅街から離れた場所に法人の介護老人福祉施設の一部として運営されているため地域社会との接点を持つことは難しい。	入居者が参加できないような地域行事にも職員がグループホームの一員として積極的に参加して少しずつ地域との接点を持つようにして行っていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として、取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で取り組んでいる季節行事やレクリエーションの報告を行っている	運営推進会議は2ヶ月に一回行われ、通常は老人会会長、副会長、民生委員、市役所の担当者、代表の家族が出席する。4、6月の運営推進会議はコロナ感染対策のため書面での報告を行なった。	運営推進会議の案内と議事録は全家族に送付してもらいたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	法改正の時や事故報告など必要に応じて、連絡・相談を行う	事故報告はまず電話で行ない市既定の書式に記入して提出する。また法改正は特になかったが例えば最近ではコロナ感染予防対策として運営推進会議をどのように実施すればよいか市役所の担当者に相談した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。	基本的な身体拘束について研修を行なっている。ベッド柵は立ち上がりや寝返りのために本人の希望で使用している。離床センサーは家族の了承を得てナースコールを押すことができない入居者4名が使用している。玄関及び掃き出し窓は日中は施錠せず玄関にはセンサーチャイムを置いて見守りで対応し、身体拘束をしない介護に努めている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	定期的に研修を行っている。		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分な説明を行い、ご理解いただくようにしている。		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見を入れてもらえるように、施設内に意見箱を設置している。運営推進会議で、意見がないか尋ねるようにしている。面会など、家族様訪問時に、お声掛けをする。	普段の面会時に家族から入居者の様子を聞かれたりするが運営に関わるような要望等はない。年2回家族会を春はバーベキュー、秋は盆踊りとして開催している。	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	毎月、グループホーム会議を行っている	グループホーム会議では一人ひとりの入居者の様子やケア記録まで意見を出し合っている。GH会議の議事録は事務所でファイルされ、出席しなかった職員が各自読むことになっている。朝会は毎日開催し、各職員が申し送りノートに記入する。申し送りノートは読んだ職員が押印して情報共有を徹底している。	グループホーム会議の議事録にも重要な情報が多いので職員間での情報共有を徹底するために申し送りノートのように押印して既読を確認する方法としてもらいたい。
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	就業規則を整備している		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	実務者研修の受講希望者には、勤務調整を行い、協力を努めている		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	年2回、グループホームの情報交換会には、参加している。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ、接する時間を多く取るようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時には、状況を報告するようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを必要としている場合は、情報の提供に努めている。要介護3以上の方には、特養の入所申し込みも可能な事をご案内している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる人には、台ふき、洗濯物たたみ等をしてもらって、職員や他の利用者から、お礼を言われる機会をもつ。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族会を行い、交流に努めている。通院介助など関わってもらっている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、家族様も含めて相談し、できるだけ馴染みの人や場との関係が継続できる方法を考える。	入居した時期には既に知人友人との関係が切れてしまっている入居者が多い。デイサービスに行って親しく話す人がいたり、また家族との関係は継続されている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の家事の中で、役割をもったり、関わり合いをもてるよう、促している。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発言から、希望をくんだり、実際に参加した時の表情で判断するなどして、笑顔がみられることを優先する。	入居者の日常の限定的な希望を把握し、答えるように努めている。リクリエーション一つをとっても試してみても難しすぎないか判断しながら一人ひとりに楽しんでもらえるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に、本人や家族から聞き取りを行うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を、朝の申し送りや会議などで共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6カ月に1回、作成する。必要に応じて、変更を検討する。	入居時に本人と家族の要望を聞いて入居者主体の介護計画書を作成している。モニタリング結果、グループホーム会議での意見等を介護計画書の見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく記録、申し送りし、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体で、多種の事業所を運営しており、ワンストップケアを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前のかかりつけ医への通院が継続できるよう、家族へ働きかける。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医への通院継続を希望するか、往診医を希望するか相談する。通院が困難な場合は、往診医に変更することも提案する。	往診医はいずみクリニックであり、往診は内科が月2回精神科が1回である。入所前からのかかりつけ医に受診している入居者が1名と往診医+専門医に受診している入居者が1名いる。通院介助は原則家族であるが、入居者に変化がある場合は書面で情報提供したり、家族が同行できない時は職員が通院介助する等の対応をして、かかりつけ医との関係も築いている。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回の訪問看護師の来所時に、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、病院を訪問したり、家族に連絡して、情報収集に努める。また、退院時		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、施設でできることを説明している。	方針については前回とあまり変化はなく医師が重度化と判断した時には、同法人が同敷地内で運営する特養あるいは家族が希望する施設に転所する。この点は入所時に家族に説明され了承されている。重度化が進む中で段階的に家族に情報を提供できるようにしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行うようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難経路の確認を行っている。	避難訓練は通常は年2回、1回は夜間想定で行なっている。居室が2階にあり、現在3名の入居者が車椅子であるので降下訓練も行なったことがある。火災の発生場所によっては2階から隣の棟への避難も可能である。消防署への直接通報電話、消火栓、消火器、スプリンクラーが設備されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行っている。	年1回グループホーム会議の時に研修を行なっている。入居者の人格を尊重するように基本的には名字で呼び、誇りを損ねないような言葉や語調を守って介護している。また入居者の個人情報利用目的を定めて家族から同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞き取り、希望がかなうよう努める		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、訪問散髪が利用できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は、おやつ作りの機会をもち、作ることも楽しんでもらえるようにしている	昼食、夕食は施設内の隣接する建物の厨房で法人の委託業者によって調理され運ばれてくる。4月から業者が変更になったところである。朝食はパンあるいはおかゆ等をGHで用意する。入居者はテーブルを拭く程度のお手伝いをしている。厨房の食事を止めてグループホームで料理する機会ももつようになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養士が献立した、栄養バランスの取れた食事を提供している。必要に応じて、様々な形態の食事やお茶ゼリーの対応も可能		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて、歯磨き介助をしている。入れ歯は、夜間は預かって、洗浄剤に浸ける。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時、随時の声掛け・誘導をし、トイレで排泄できるよう心掛けている。	現在できているレベルを維持するよう努力している。排泄チェック表を利用し、日中は極力自分でトイレで排泄できるよう支援している。夜間はナースコール、離床センサと見守り、パット交換（1名のみ）で対応している。ラジオ体操は下肢筋力強化にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう、確認、声掛けを行っている。昼食前と夕食前に、ラジオ体操など運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日、時間は決まっている。午前中にお声を掛けて、行きたくないと言われたら、午後に入れるよう調整したり、体調をみて、清拭や中止にすることもある。	週2回の午前午後が入浴日時である。入浴を嫌がる入居者には時間を空けて再度入浴を勧めたり、気をそらすようにして入浴を促すが、それでも拒否する場合は入浴を中止することもある。何度か続けて入浴拒否される時は家族にも報告し理解してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めていない。		

47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変更などがあれば、申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気	できる人には、台ふき、洗濯物たたみ等をしてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の気候などをみて、特養の庭など、に散歩に出たりしている。	敷地が広く中庭や花壇のある庭がある。散歩の日と決めた日には全員が順番に散歩する。現在はコロナ感染予防のため敷地内であっても自由に他の建物を通ることができない等制約がある。夏の暑いときに喫茶店等に何名かで出掛けたり外部の公園に出掛けるのも今年は難しい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。全員が認知症であり、現金の紛失・思い違いによる不穏やトラブルを防ぐため、家族様管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望があれば、家族様の了解を得て、電話や手紙のやり取りの支援をする。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に植わっている、季節の草花を飾ったり、壁画で季節感を取り入れている。テーブルや椅子、床を、温かみのある木製や木目調のものを多く採用している。リビングの大きな掃き出し窓は明るく、開放感のあるつくりになっている。	敷地内には桜の木が多数植えられ、リビングルームからも数本見え、季節を感じるができる。季節のよい時は掃き出し窓を開けている。現在はコロナ感染予防のため法人から2時間おきに窓を開けるよう指示を受けている。掃除は毎日行ない、テーブル等アルコール消毒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外に、ソファを複数用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時、ご自宅から、馴染みの家具をお持ちいただくようお願いしている。	居室は2日に1度掃除して換気のために窓を開けている。リネンは10日に一回交換し布団乾燥機で布団を乾燥させる。居室は人によってはカレンダーすら飾りたくない人もいるため一見殺風景に見える居室もあるが個々人の自由に任せている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる人には、台ふき、洗濯物たたみ等をしてもらっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいとして ③利用者の3分の1くらいとして ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない